

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	愛知県	市町村名	豊田市	大学名	
派遣日	令和3年7月21日(水曜日) 12:00~16:15 <派遣当日の日程> 12:00~13:00 打合せ、教育長との懇談等 13:00~13:30 会場にて準備 13:30~15:50 研修会にて講演・質疑応答等 15:55~16:15 研修者の個別の相談対応				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	豊田市教職員会館 (愛知県豊田市保見町西古城92-1)				
アドバイザー氏名	櫻井 千穂 大阪大学大学院言語文化研究科 講師				
相談者	豊田市教育委員会 豊田市教育国際化推進連絡協議会				
相談内容	①日本語の学習について ・日本生まれ(又は10歳以下で来日)で母語の語彙も少ない児童生徒の支援方法 ・小学校の低学年で来日したのに、中学生になっても日本語が定着しない子への支援 ・母語教育の必要性(考える力の育成) ・日本語を習得するための支援方法、日本語能力や学年に応じた日本語指導 ②教科学習支援について ・日本語初期指導での教科指導の在り方 ・学習言語を学ぶための効果的な支援 ・JSLカリキュラムの活用法、実践例 ・個々の学習意欲を引き出すための対応 ・個に応じた指導の工夫、取り出し指導以外の工夫 ③その他 ・文化の違いへの対応方法 ・思考を促す授業づくりと発問(発話コントロール) ・DLAや各種教材の活用方法 ・母語教育の必要				
派遣者からの指導助言内容	「児童生徒のことばと心を育てる」という演題で、文化的・言語的に多様な子ども(CLD児童生徒)のことばの習得と、教育の基本的な考え方、支援の方法について以下の内容を指導助言していただいた。 ・CLD児童生徒の不適切な受け入れの例、自文化中心主義と文化相対主義から「安全地帯」にいてこそ、子どもの学びは起こることの確認。 ・子どもの実態を把握して、指導内容や方法を考えることの重要性。 ・子どもの言語発達(習得)は、聞く→話す→読む→書くの順でできるようになる。話しながら意味を入れ、ことばを載せていくこと(ことばを覚えることより使うこ				

	<p>と)が大切。</p> <ul style="list-style-type: none">・生活言語能力(BICS)の習得には1～2年、学習言語能力(CALP)の習得は、8歳以降に入国で5～7年、8歳以前に入国の場合は7～10年かかる。教科学習で使う言語が分からない子がたくさんいる。・教科学習では、高度な文章を理解することが要求されるため、読解力育成に焦点を当てた多読が非常に大事である。・二言語相互依存説の深層面に働きかける(頭の中が繋がっていく)教育が必要。・多くの外国人児童生徒が学習に2年遅れる実態があり、教科学習の場面で「わかる」「できる」授業を受けられていない。二言語使用者が、日本語だけではなく二言語を使って考え、頭を働かせることが大切。・授業は子どもの現状を把握し、目標を設定してアレンジする。・JSLカリキュラム、ユニバーサルデザイン授業の効果的な実践例による「意味」のある学習、「内容」がわかるしかけ、褒めることの重要性。・読んだ内容を話す・書く(インプット+アウトプット)読書指導の効果。・母語授業は効果があり、母語をしっかりと育てることも重要。・教師は、子どもの可能性を奪わない社会を作っていく責任がある。外国人の子どもは、二つ以上のことばと文化をもつ、可能性のある子どもである。
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>今までの豊田市教育委員会や豊田市教育国際化推進連絡協議会の研修会は、対象者が日本語指導を担当する教員や指導員が中心であった。今回の研修には、日本語指導に直接携わる教員や指導員だけでなく、管理職の参加も多くあった。今後も、管理職や教務主任等、学校の運営や授業の改善に影響力をもつ教員が、外国人児童生徒等教育に積極的に関わることができるように意識を高められる研修内容にする方針である。</p> <p>今回の研修内容については、年度末に報告集にまとめ、豊田市内の全小中学校に配布するとともに、豊田市のホームページに掲載する予定である。</p>

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。